

東北大学-RIETI共催シンポジウム

コロナが変えた社会

プレゼンテーション資料

「コロナが変えた人々のつながり」

青木 俊明

東北大学国際文化研究科教授

2021年11月10日

<https://www.rieti.go.jp/jp/index.html>



TOHOKU
UNIVERSITY

RIETI

Research Institute of Economy, Trade & Industry, I.A.A.



コロナが変えた人々のつながり



東北大学大学院 国際文化研究科
教 授 青木 俊明

コロナ禍での生活

新型コロナウイルス感染症封じ込めに向けた

県民の皆様へのお願い

5月12日(水)～5月31日(月)

県内は、感染者が急増し、医療提供体制への負荷が高まっている「ステージ3」の状態です。一刻も早い事態の改善のためには、今が瀬戸際です。県民の皆様一人ひとりのご協力をお願いいたします。

不要不急の外出の自粛を(県内全域に拡大)

飲食店は21時までの営業時間短縮を(県内全域に拡大)
・大分市、別府市は5/12から
・その他の市町村は5/14から(やむを得ない場合は5/17)

おおいの味力食うぽん券の利用を控えて(県内全域に拡大)
* テイクアウト除く

会食は家族または少人数(4人まで)・短時間でマスク会食の徹底を

カラオケは利用自粛を(家族利用は除く)

「新しいおおいの旅割」の停止

県境をまたぐ往来は自粛を

基本的な感染防止対策の再徹底を
・屋内では不織布マスク、密になる場所ではマスクの2枚重ね
・マスク着用の上での十分な距離の確保
・マスク着用の上での短時間の接触(会食、会話)

大分県新型コロナウイルス感染症対策本部
大分県社会経済再活性化緊急推進本部

<https://twitter.com/oitapref/status/1392389559711764482>

面会される方への 面会自粛のお願い

新型コロナウイルス感染症が北海道内でも発生しております。病院内での発生、および、集団感染を予防するため、**入院患者さんへの面会を自粛**して頂くようお願い致します。

また、面会の必要がある場合には、**マスクを着用した上で、最小限の人数、短時間**として頂くようお願い致します。

ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願い致します。

病 院 長

<https://www.tonan.kkr.or.jp/news/2020-0221-1332-10.html>

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をお願いします

3つの“密”を避けましょう!

新型コロナウイルスの感染防止にはクラスター(患者集団)の発生を防ぐことが重要です。日常生活で3つの“密”が重ならないよう工夫しよう!!

- 1 行かない**
換気の悪い密閉空間
カラオケ、ライブハウス、バー、ナイトクラブなどの密閉空間を伴う飲食店への出入りを避けてください
- 2 集まらない**
多数が集まる密集場所
人と人との距離をとり、密集場所を避けてください
- 3 近づかない**
間近で会話や発声をする密接場面
人込みや密集場での会話、特に大声を出すことや密接することは避けましょう

みんなで大切な人の命と健康を守ろう!!

STOP コロナ

【富山県厚生部健康課】電話:076-444-4513
〒930-8501 富山市新総曲輪(しんそうがわ)1番7号



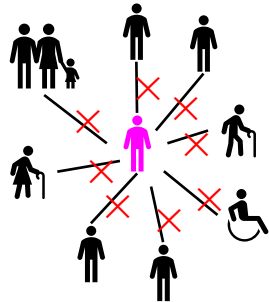
<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/soudanshitsu/madoguchi/kj00021864.html>

謹慎のような生活が求められた日々

日々の自粛

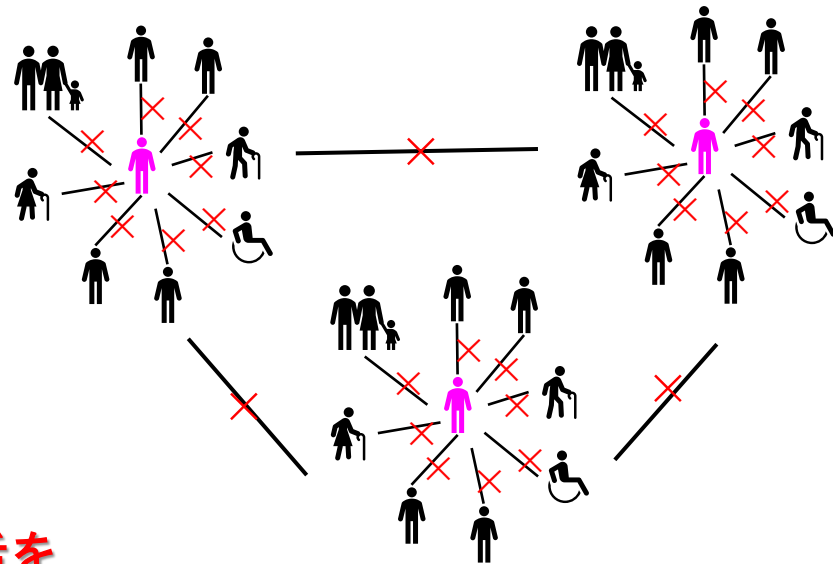
個人としての隔絶

- 外出の自粛
- 対面コミュニケーションの自粛
- 集団からの隔絶



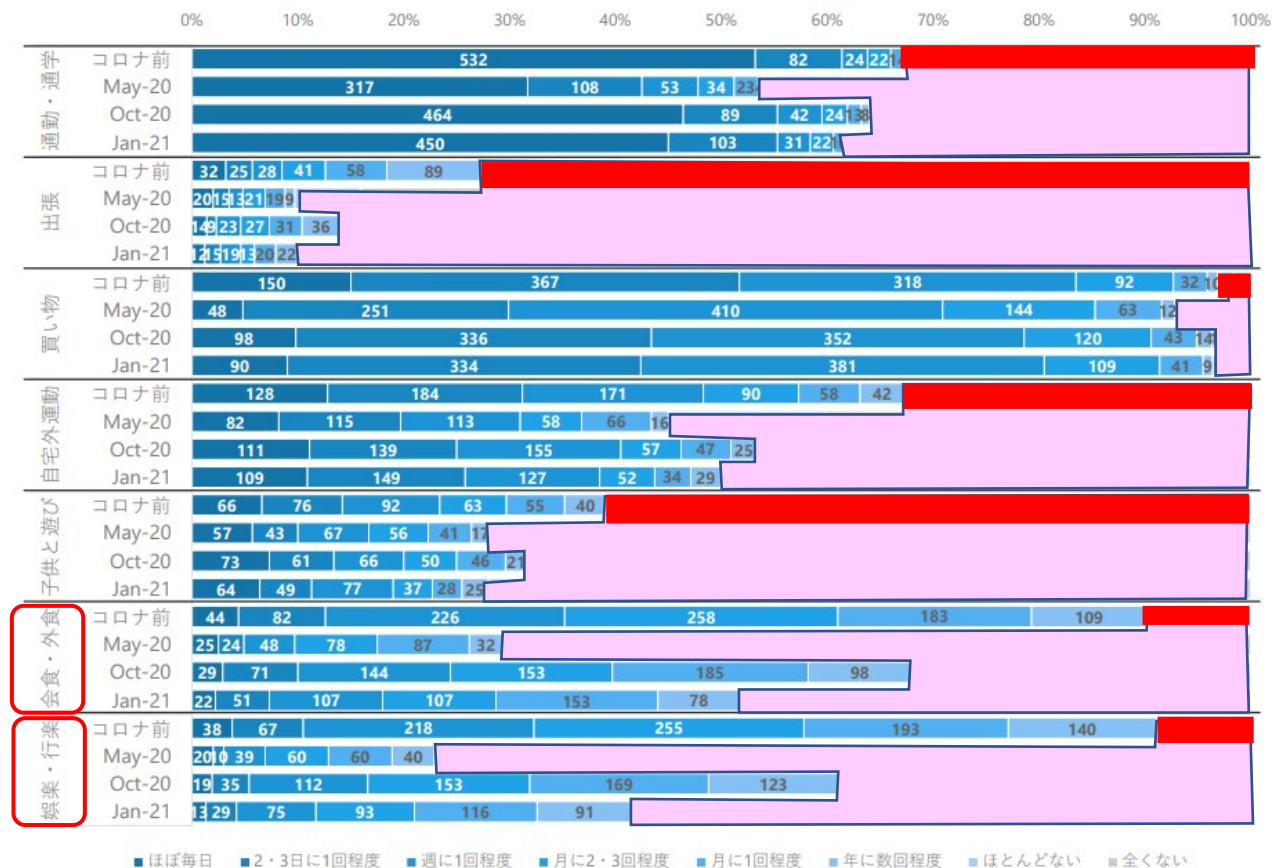
集団としての隔絶

- 会食の自粛（飲食店の営業自粛）
- イベント・集会の自粛
- 学校のオンライン化・休校

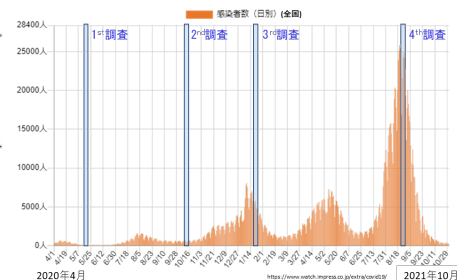


個人は二重の意味で
人々（社会）から切り離された生活を
余儀なくされている

日常の生活行動の変化



コロナ前
全くない／ほとんどない



土木学会「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」

時期：1st:20年5/21-24, 2nd:20/10/9-19, 3rd:21/1/22-28, 4th:21/8/20-29

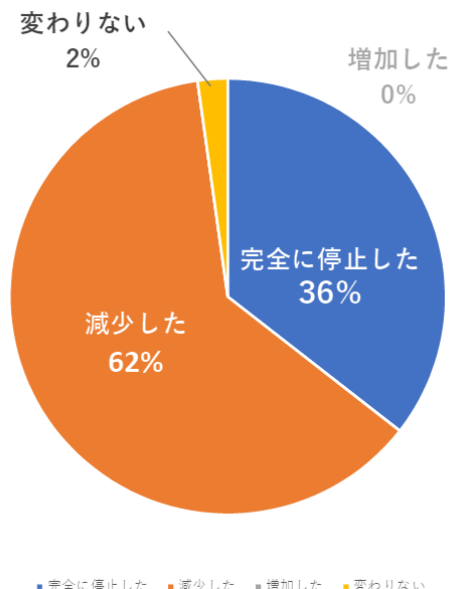
回答者数 1000人

□ 娯楽/会食等における自粛が顕著

□ 日常生活に不可欠な行動は自粛幅が小さい

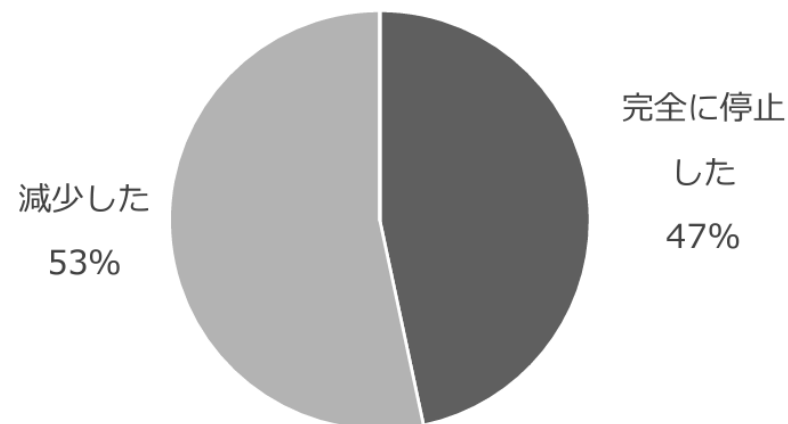
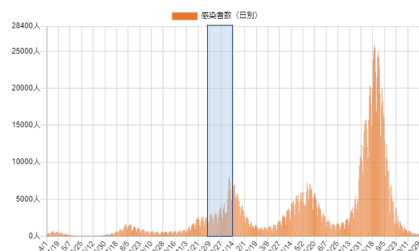
□ 子供との遊びに大きな変化はない（そもそも遊んでいない）

地域活動の変化



大阪市
『コロナ情勢下における地域活動者アンケート』

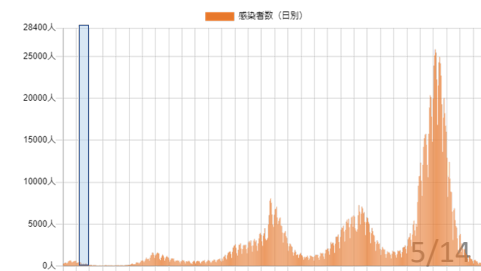
- 2020年12月～2021年1月22日実施
- 対象地域：北区19地域
- 回収数：131



■ 完全に停止した ■ 減少した ■ 増加した ■ 変わらない

東京都福祉局
『新型コロナウイルス情勢下における東京都内の地域活動団体の活動状況について』

- 調査期間
- 対象者：：2020年4月27日～2020年5月8日
- 回答団体数：45団体（東京ホームタウンプロジェクトでの支援先団体）



地域活動の停止/弱体化

コミュニケーションの変化

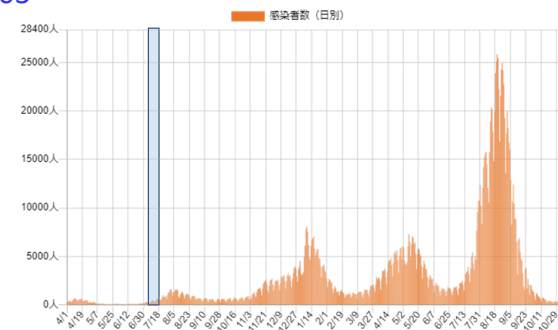


日本リサーチセンター

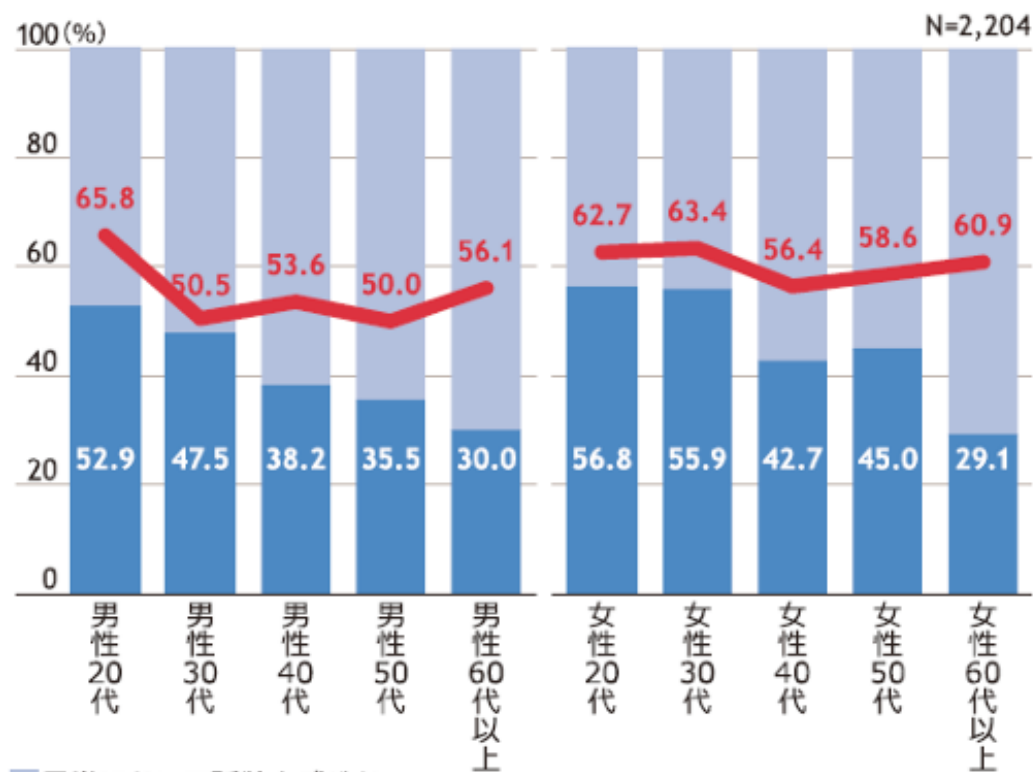
「Withコロナ、人々が望む今後のコミュニケーションのあり方に関する調査」

2020年7月14日-21日、web調査、N=1403

**対面コミュニケーションは減少し、
オンラインが増加**



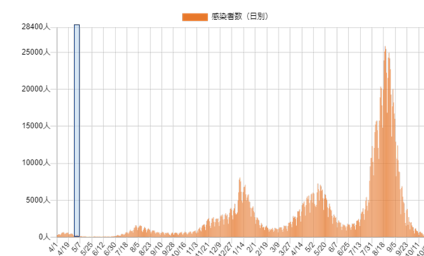
感情面の変化



■ 日常において孤独を感じない
■ 日常において孤独を感じる(※)

■ (※)のうち「新型コロナウイルス流行前と比較して孤独を感じるが増えた」と回答したひとの割合

- 半数以上の方で、孤独感が増大
- 若年層で高い孤独感の増大
- 女性の方が孤独感の増大が大きい



株式会社 野村総合研究所

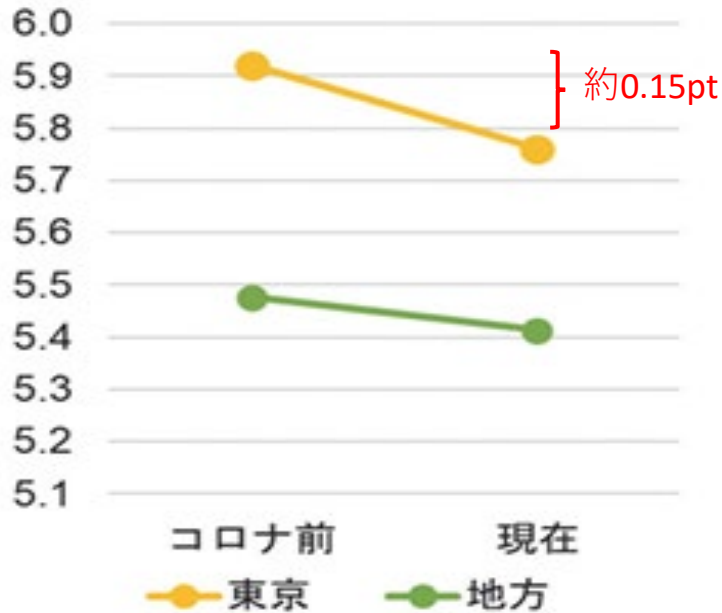
- 調査名：「新型コロナウイルス流行に係る生活の変化と孤独に関する調査」
- 調査実施期間：2021年5月7日～5月9日
- 調査手法：インターネットアンケート
- 調査対象：全国の20代～80代の男女2,204人
 - 内訳：20代、30代、40代、50代、60代以上×男女の10セグメントにおいて各200名程度

心理面の変化：幸福感



コロナ前と現在の幸福度の比較

(点) 7件法で計測



平均値の差の検定
東京 P値：0.0285 (5%有意)
地方 P値：0.2014 (有意な差はない)



橋本ら: 地域差とコロナ前後の比較によるサードプレイスと幸福感の関連性の研究,

調査名	日常的な「サードプレイス」についての	
調査期間	2021年1月7日～10日	
回答数	888	
有効回答数	881	
形式	Web調査	
対象地域 (回答数)	東京都 (439人)	大都市圏以外の37県 (442人)
調査対象年齢	20代から50代	
主な調査項目	・コロナ前と現在のサードプレイスに関して ・生活満足度や幸福度に関して ・生活の嗜好性に関して	

※所得変化の影響は未統制

孤独感による幸福感の低下幅は
小さいのでは？



以前に比べれば孤独感は感じるが、
不幸というほどではない

つながりの現状

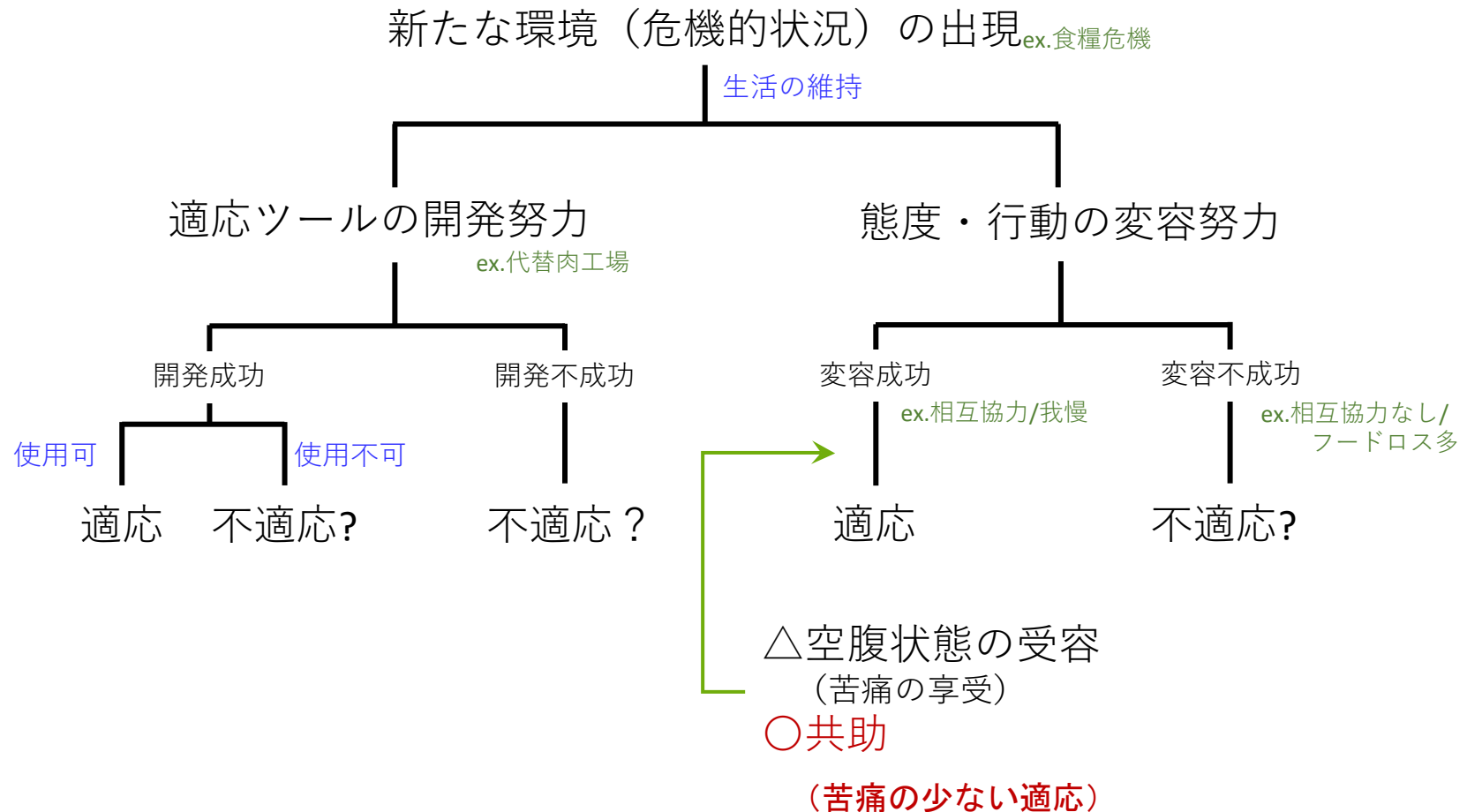
- Face-to-Face のつながりは希薄化
- ネットや電話等のツール上でつながりを維持
- つながりが消失したわけではない
- 現時点では、不幸になったというほどでもない
- 文化等への影響は現時点では不明



環境変化への適応圧力が生じている状態



環境変化への対応



ソーシャル・キャピタルとコロナ渦

ソーシャル・キャピタル (social capital)

- 人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴 (Putnam, 1993)
- まちづくりでは、「ご近所の底力」とも言われる
- 自集団のために互いに助け合う文化

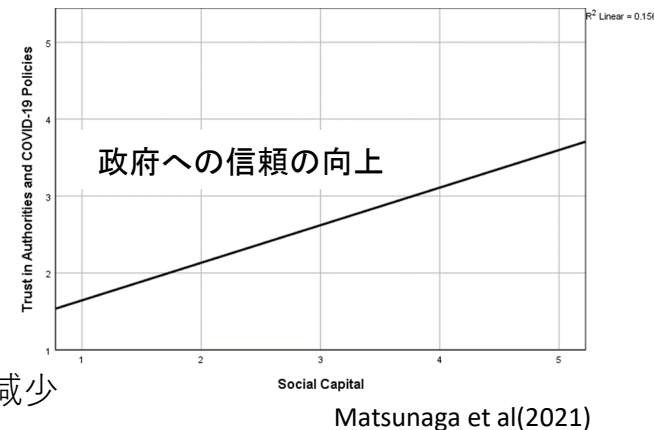
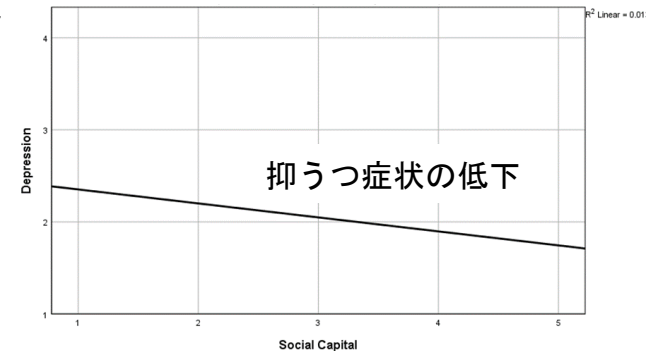
ソーシャル・キャピタルの効果

- 生産性向上
- 復興速度の向上
- 健康維持
- 犯罪低下 etc

共助と公共への協力による
危機の克服

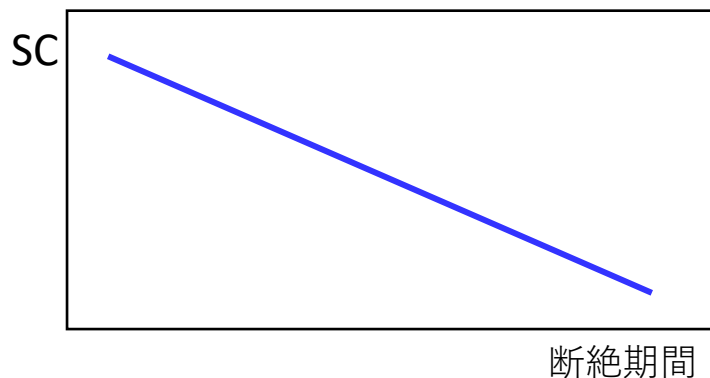
コミュニケーションの減少

コロナ渦ではSCの維持は難しい



ソーシャル・キャピタルの変化予想

ソーシャル・キャピタルの変化



SCを維持・改善する動機は高まりにくい

- ・ コミュニケーションツール等に関わる技術開発の加速
- ・ 幸福感はさほど低下していない

関係断絶の現状が続く場合

→ 人々が主にツール上でつながった社会

- ・ 社会の経済的衰退と脆弱化 → 要対応（生産性低下・災害脆弱性上昇）
- ・ 無縁社会の拡大・浸透
- ・ 広く薄い人間関係
- ・ 新規の関係構築は困難
- ・ 大事な関係は維持

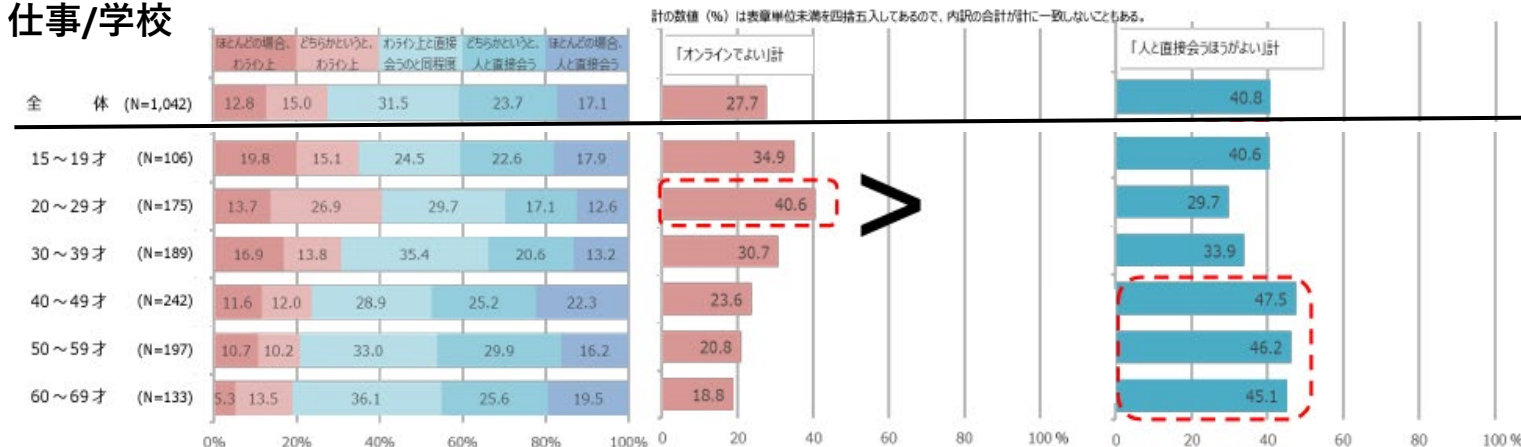
人間関係の大都市化

- ・ 初体験ではない
- ・ 大都市の一部若年層と同じになる

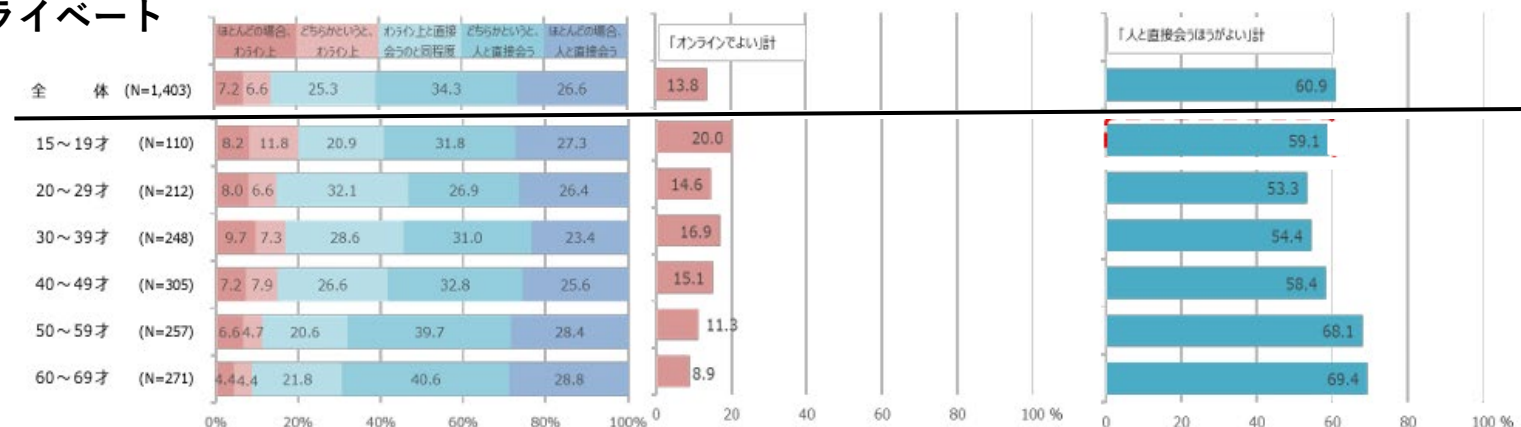
コミュニケーションの選好

日本リサーチセンターの前出の調査結果より

仕事/学校



プライベート



- ・ 仕事ではオンライン派が高割合。特に若年層。 → 面倒な関係はオンライン
- ・ 私生活では、全世代で対面派が多い → 心地良い関係は対面

ポストコロナの“人々のつながり”

□現時点では、人々のつながりは希薄化

□現在は適応過程中

□最終状態はまだ不明

- ・ コロナ以前に近い状態に戻る可能性
- ・ 広薄型の関係社会に変わる可能性
- ・ どちらにしても**全くの未知の状況ではなさそう**

□広薄型の関係社会は善い社会（幸福な社会）か？

□重要な点はソーシャル・キャピタルの維持・回復

- ・ 必要性の低い関係は断捨離が進む？
- ・ 心地良い関係は自動で回復
- ・ **非快適でも必要な関係 (= SC) は回復・向上させるべき**
- ・ コロナ渦転じて福となるか？

政策介入の必要性

ご清聴、ありがとうございました。

toshiaki.aoki.a1@tohoku.ac.jp